指定管理業務評価表

施設名	小牧山城史跡情報館		
対象年度	令和元年度	評価担当部	教育委員会事務局
指定管理者名	一般財団法人　こまき市民文化財団		
指定期間	平成３１年４月２５日　～　令和５年３月３１日		
職員体制	常勤職員：１人　　非常勤職員：２人　　合計：３人		

１．　利用実績

（1）利用者数

		常設展示室入場者数			レクチャールーム入場者数	総計
		個人	団体	計		
4月	大　人	3,427	0	3,427	0	4,003
	小　人	576	0	576		
5月	大　人	5,888	339	6,227	106	8,257
	小　人	1,419	505	1,924		
6月	大　人	1,717	228	1,945	145	2,583
	小　人	312	181	493		
7月	大　人	1,223	265	1,488	77	2,035
	小　人	400	70	470		
8月	大　人	1,566	219	1,785	31	2,504
	小　人	643	45	688		
9月	大　人	2,771	149	2,920	1,014	4,817
	小　人	883	0	883		
10月	大　人	4,196	248	4,444	1,517	7,476
	小　人	1,513	2	1,515		
11月	大　人	2,271	515	2,786	578	4,004
	小　人	614	26	640		
12月	大　人	1,539	240	1,779	353	2,496
	小　人	345	19	364		
1月	大　人	1,213	245	1,458	222	2,082
	小　人	367	35	402		
2月	大　人	1,265	262	1,527	215	2,163
	小　人	407	14	421		
3月	大　人	0	0	0	0	0
	小　人	0	0	0		
合計	大　人	27,076	2,710	29,786	4,258	42,420
	小　人	7,479	897	8,376		
年計	計	34,555	3,607	38,162	4,258	42,420
前年比		－	－	－		－

（2）増減要因

小牧山城史跡情報館は令和元年度に開館し、42,420 人来場しました。開館当初の４月、５月はゴールデンウィークに無料開放したこともあり、順調に来場者数を増やしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和２年２月２９日から３月３１日まで閉館しました。例年３月は桜が開花し、小牧山への来場も多く見込まれる月であるため、閉館は総来場者数に大きく影響していると考えられます。

今後は、小牧山城主郭地区での発掘調査成果の公表や企画展を開催することで、小牧山城の歴史的価値を広めていくとともに、来場者の増加を図ります。

２．　利用者アンケートの結果

実施期間	令和元年１１月　１日～　１１月１５日	回答数	６６名
利用者の主な意見	市外からの利用者は、７１％を占めており、利用頻度については、９０％が初めてと回答している。職員の対応については、満足・やや満足との回答が９９％である。施設や設備については、９６％が満足（やや満足）と回答している。意見として、展示がわかりやすかった、体験型のコーナーが面白い等があった。要望としては、「入口がわかりづらい」との声があった。		
具体的な対応状況	既設の看板は色あせがあり、みえづらい状態であったため、看板を作成しなおし、設置しました。		

３．　収支の実績

（単位：千円）

		元年度（現年決算額）	２年度（翌年予算額）	備考（主な内訳、増減要因）
収入	指定管理料	33,423	46,159	
	事業収入	0	0	
	合計	33,423	46,159	
支出	人件費	15,883	20,911	
	需用費	4,014	7,232	消耗品費、燃料費等
	役務費	228	272	通信運搬費等
	委託料	6,595	9,794	企画展示業務委託料
	使用料及び賃借料	466	563	モップ及びマット借上料等
	原材料費	18	70	
	負担金及び補助金	0	0	
	報償費	569	860	歴史ボランティア等謝礼
	事務局費按分	5,650	6,457	
	合計	33,423	46,159	

４．　評価

項目	市の評価
運営業務	・法令等の遵守、報告書等の提出、個人情報の取扱は適切に実施されている。鍵の保管方法などについて、引き続き、適切に扱うこと。
維持管理業務	・施設・設備の点検・保守は確実に行われている。
自主事業	・企画展やワークショップの開催により、利用者が増加している。引き続き、自主事業の実施に努めること。
サービスの質	・利用者アンケート調査の中で、職員の対応については、９９％の利用者が満足（やや満足）と回答している。利用者がより快適に施設を利用できるよう考慮して、日々の業務にあたること。
収支状況 及び 経費節減	・引き続き、経費削減を意識し、施設管理にあたること。
その他 （緊急時の 対応等）	・引き続き、不審者対応訓練・消防訓練により非常時、緊急時の適切な対応の強化をすること。